

2015 年司法試験

短答3科目戦略セミナー 第2部 DATA 分析

DATA 分析レジュメ

担当 平成 24 年司法試験合格者 松永成高 講師

- ・司法試験の短答が 7 科目から 3 科目に削減されるが、下 4 法（行政法、商法、民事訴訟法、刑事訴訟法）の短答型の勉強をしないのは得策ではない。
- ・業界最大の受験者数を誇る辰巳が、今年の辰巳司法試験全国公開模試のデータを用いて、このことを立証する。
- ・データ間の相関関係を、相関係数を用いて分析する。
相関係数とは、2 つのデータ間の相関性を表す数値。
0 に近いほど無関係であり、1 に近いほど「片方が上がればもう片方も上がる」という関係がある。
- ・短答は、民法・行政法が他の科目との相関性が強い。
逆に、憲法・刑訴は他の科目との相関性が弱い。
- ・論文は、刑訴・民訴が他の科目との相関性が強い。
逆に、刑法・憲法は他の科目との相関性が弱い。
- ・短答と論文との相関性を科目ごとに見てみると、上 3 法は概ね弱く、下 4 法は概ね強い。
→下 4 法の短答の知識は、論文にも活きる。
- ・科目によってこのような違いが生じるのはなぜか？
- ・短答の知識が論文に活きることの例
——平成 26 年司法試験民法第 2 問（商法）を題材に

- ・分析対象：2014年の司法試験の受験資格があり，同年の辰巳司法試験全国公開模試の全科目を受験した者

図 1

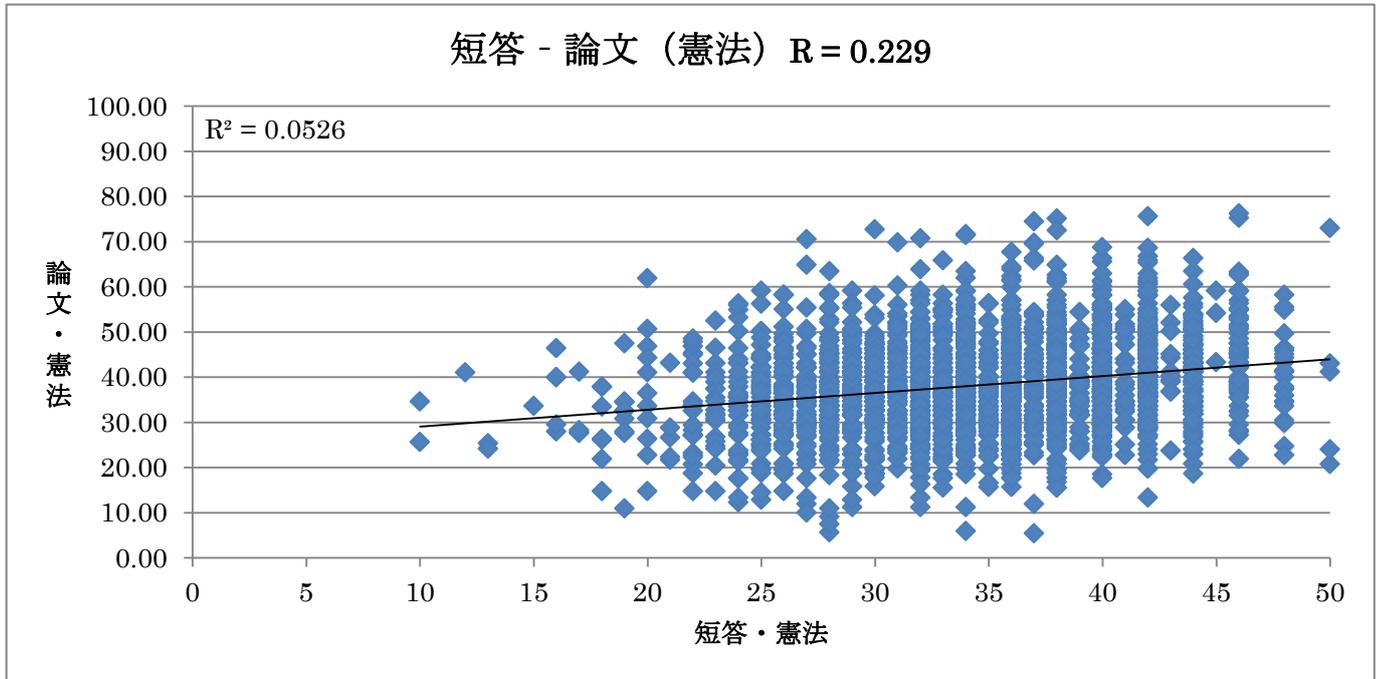


図 2

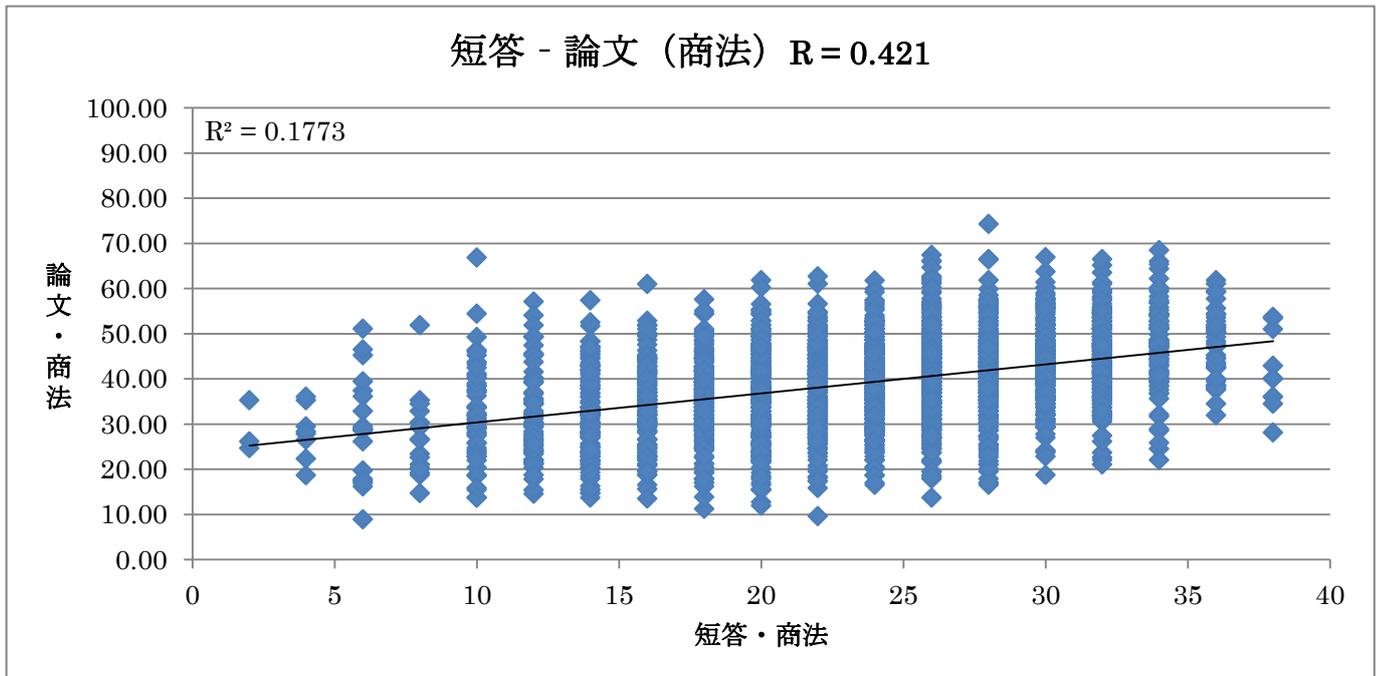


図 3

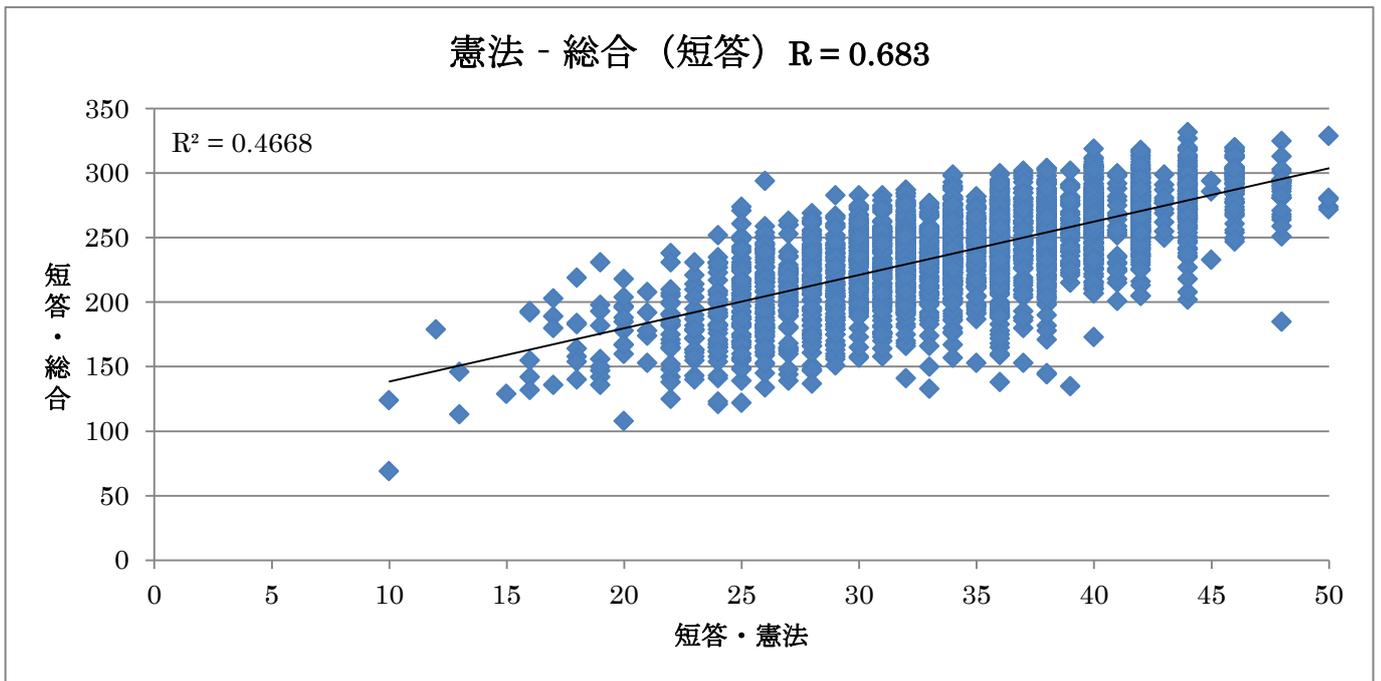
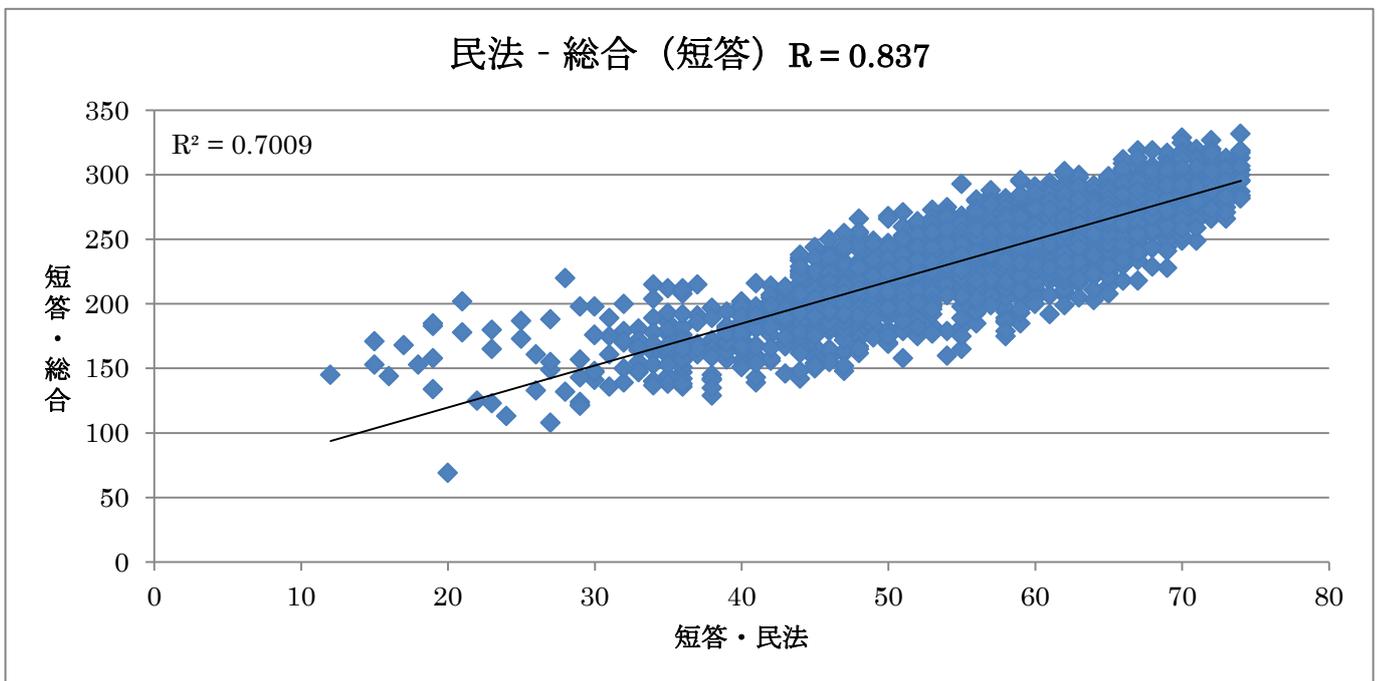


図 4



科目間の相関係数（短答）

短答	憲法	行政法	民法	商法	民訴	刑法	刑訴	総合	
憲法		0.491	0.497	0.414	0.407	0.470	0.428	0.683	⑦
行政法			0.574	0.558	0.551	0.559	0.527	0.797	②
民法				0.600	0.619	0.558	0.495	0.837	①
商法					0.562	0.510	0.492	0.770	④
民訴						0.518	0.477	0.757	⑤
刑法							0.513	0.772	③
刑訴								0.728	⑥

強 ①民法と民訴，②民法と商法，③行政法と民法

弱 (1)憲法と民訴，(2)憲法と商法，(3)憲法と刑訴

科目間の相関係数（論文）

論文	憲法	行政法	民法	商法	民訴	刑法	刑訴	総合	
憲法		0.418	0.392	0.392	0.408	0.365	0.442	0.669	⑥
行政法			0.407	0.486	0.489	0.362	0.489	0.720	④
民法				0.459	0.452	0.385	0.447	0.696	⑤
商法					0.514	0.413	0.526	0.749	③
民訴						0.418	0.527	0.752	②
刑法							0.438	0.663	⑦
刑訴								0.763	①

強 ①民訴と刑訴，②商法と刑訴，③商法と民訴

弱 (1)行政法と刑法，(2)憲法と刑法，(3)民法と刑法

短答と論文の相関係数

憲法	(行政法)	民法	(商法)	(民訴)	刑法	(刑訴)	総合
0.229	0.359	0.314	0.421	0.394	0.382	0.369	0.616
⑦	⑤	⑥	①	②	③	④	